

# はじめに

本書がどのような本かという

## 救命士が搬送現場で本当に困ったコト

## 医師が教えたことでなく、本当に救命士が知りたいコト

がすべて書いてある本になります。

目次を見てみてください。何度か遭遇したあの困った場面を思い出すことでしょう。消防学校や先輩救命士から教えてもらった知識では対応できない事例、救命士がリアルに遭遇した“本当に困った”を筆者が15年かけて聞き募って、それに可能な範囲で答えた書籍として、『救急隊員のための救急搬送戦略1』を発行しました。本書はそれに続くお待ちかねの第2巻となります。

救急搬送の65%は内科疾患、搬送現場で最も必要なのは知的戦略です。しかし体育会系より文科系のマネジメントは救命士の苦手なところ。そこで本書では、イケイケ・ドンドンでは進められない事例として、第1巻では記載しきれなかった必発の内科疾患、麻痺・呼吸苦・腹痛の搬送戦略を補填しました。

一方で救急搬送の25%を占める外傷疾患については第1巻で情報提供できていませんでした。こちらは派手な外傷で“なく”，どこへ搬送すればよいか困ってしまう外傷事例を集めました。外傷でも内科同様に鑑別疾患を考え搬送選定する流れを踏襲しております。

さらに近年増えている高齢者搬送が全体の60%を超える勢いです。そこで、内科・外傷に関わらず常に高齢者を意識した搬送戦略を盛り込みました。何度も搬送キャンセルになる腰痛疾患は中年・高齢者と豪華2本立てで解説しております。

最後に困難搬送事例として精神科、アルコール中毒など誰もが苦戦する事例の切り抜け方を伝授します。当直明けで疲れたときにも失敗しないための虎の巻になるでしょう。

各章の末尾には、事例ごとの搬送の流れを図にまとめた<救急搬送・戦略図>を掲載しています。現場で困ったときはこの救急搬送・戦略図を片手にピンチを

切り抜けることができる，本書はサバイバルガイド．通読後は今の時代に必要なスーパー救命士にグレードアップできることをお約束します．

2019年3月

札幌東徳洲会病院救急科

増井伸高